

無限の可能性を信じ、たくましく歩んでいこう

校長 光安 淳子

北京冬季パラリンピック日本選手団の旗手を務めた富山市出身の川除大輝選手が、「ノルディックスキー距離男子20キロクラシカル立位で金メダル獲得した!!!」というニュースが飛びこんできました。東京オリンピックの八村選手に続き、川除選手が日本選手団の旗手を務めることになっただけでも、富山県人として誇らしい気持ちでしたが、その川除選手が、金メダルを獲得したのです。その吉報に、わくわくした気持ちになりました。川除選手は、生まれつき両手足の指の一部がないため、ストックを持たずに両手を振って滑ります。さらに、身長も160センチそこそこの小柄な川除選手は、大柄な外国勢と闘うために、狭い歩幅を回転数を増やすピッチ走法でカバーしました。身に付けたピッチ走法をいかし、長い上り坂で2位以下の選手を大きく突き放して優勝しました。様々な困難を力に変えて、成長を遂げた川除選手が金メダルを獲得したことは、私たちに大きな勇気と希望を与えてくれました。

新型コロナウイルス感染症の猛威はとどまることを知らず、世界を見渡せば、ロシアがウクライナに侵攻し、戦地の過酷な状況が連日伝えられています。こんな厳しい状況にあって、オリンピックに浮かれていますか、という意見もあります。もちろん、それらの現実から目を背けてはいけません。しかし、どんな厳しい状況にあっても、夢をもって、前を向くことを忘れてはいけないと思います。

私たちは、時に、様々な困難に出会います。立ち止まって、誰かに助けを求めることもあるでしょう。そんなときがあってもいいと思います。それでも、私たちには、一人一人に秘められた力があることを忘れてはいけません。

可能性は無限大です。自分の可能性や仲間の可能性を信じ、たくましく歩んでいこう!!!

苦しいとき、しんどいときこそ、笑顔を思い出して、小さくてもいい、確かな歩みを進めたいと思います。

一年間のアクションプランの取組より



【アクションプラン(主体的な学び)】

2学期の生徒アンケートの結果では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む(書く、話す等)ことができた」と回答した生徒、「振り返り」を通して学びを実感できた」と回答した生徒が、1学期と同様、ともに全学年で80%以上でした。しかし、「A:とても当てはまる」と回答した1,2年生の割合が減少し、「C:あまり当てはまらない」と回答した1,2年生の割合が増加している点が課題でした。

そのため、3学期は、「自ら学習したくなる、意欲をかき立てる課題提示」のあり方や「生徒の取組を級友と共有する機会の充実」に焦点を当て、授業を行いました。生徒たちは、課題の解決に向けて、「調べてみたい!」「分かるようになりたい!」という意欲をもって取り組んできたと思います。ただ、学習内容が難しくなり、それにともない課題もレベルUPするにつれ、そのハードルも高くなるということが感じられました。今後も、生徒たちが、学習内容が高度になっても、課題に向けて、主体的に取り組もうとする授業展開や学習活動を工夫したいと思います。また、生徒たちに学習の「振り返り」において、学びを実感、達成感を味わせていくことが必要です。授業におい



て継続的に「まとめ」や「振り返り」の活動を組み込んでいきたいと思ひます。3学期、生徒会の学力向上委員会が中心となつて、3学年の生徒一人一人から学習に関するアドバイスをもつたり、学年の仲間と、1年間の学びについて実感した様々なポイントを共有するする場を設けたりする掲示板を各階廊下に設け、進級にむけての準備を整えました。今後も、生徒が主体となる学びの在り方を追究していきたいです。



【アクションプラン2 (ICT 機器の活用)】

2、3学期、新型コロナウイルス感染症予防のため、多くの行事がリモートで実施されました。授業のみならず、様々な場面でICT 機器の活用が一層充実したものとなりました。

2学期の生徒アンケートの結果では、「ICT をもちいて自分の学びを深めることができた」と回答した生徒が90%以上でしたが、1学期に比べると各学年で2~3ポイント減少しました。授業の中でタブレットを活用する機会が増えたのは間違いありません。しかし、「学びが深まる」という視点において疑問が残ります。また、「自分の意見や考えをまとめることができた」と回答した生徒は80%以上でしたが、1学期に比べると3~10ポイント減少しました。この項目でも同様に、考えを「まとめる」視点で改善が必要だと考えられました。

現在は ICT 機器の活用が充実化し、生徒は、情報を収集したり、自分の意見をまとめ、意見を共有したりすることがより一層定着しつつあります。今後も効果的な活用形態や、ICT 機器を生かした学習の深め方についても検討していきたいと思ひています。2学期からは、朝学習や放課後学習において、タブレットを用いて e ライブラリという教材を用いた習熟度別個別学習を行っており、生徒たちは個々の進度に合わせて学習を進めています。e ライブラリは、生徒たちが自分のレベルやペースで学習を進めることができるシステムです。毎朝、生徒たちは黙々と真剣に取り組んでいます。今後も、継続してこの学習も行って行く予定です。



【アクションプラン3 (よりよい人間関係)】

2学期の生徒アンケートの結果では、「友達と接する中で、友達のよさを感じる事ができた」「相手の話や意見を尊重し、最後まで聞いたり、自分の考えや思いを相手に伝えたりすることができた」と回答した生徒が90%以上でした。教員アンケートの結果では、「生徒が友達と話し合う場をより多く設定し、友達のよさを感じることができるよう工夫している」「生徒が相手の話や意見を尊重し、最後まで聞いたり、自分の考えや思いを伝えたりすることができるよう工夫している」と回答した教員が約90%でした。

アンケートの数値の高さから、友達との関わり合いの中で、友達のよさを感じ、友達を認め、賞賛する機会が多くあったと言えます。今後も、互いのよさを認め、尊重し、よりよい人間関係を築くことができるように、教員一同でサポートしていきたいと思ひます。また、相手の話や意見を尊重し、最後まで聴いたり、自分の考えや思いを相手に伝えたりできた生徒の割合も高い数値となりました。今後も、朝学習や学級活動で対人関係ゲームや構成的グループエンカウンター等を取り入れながら、関わり

合いの機会をより多く設定したいと考えております。今年度行ってきた、対人関係ゲームでは、自分の考えが全てではなく、いろいろな考え方があるんだということ、ゲームを通して考えさせる機会を生徒にもたせました。クラスの友達とのゲーム感覚でのコミュニケーションを通して、より相手のよさを知り、相手の思いや考えを認め合う関係作りができるよう、活動を継続して行きたいです。また、この活動を通しての「振り返り」を取り入れ、さらに教師からの温かいメッセージにより、生徒たちがより一層他者との良好な人間関係を築いていけるよう、働きかけていきます。

